昨年度までの学校経営計画

平成26年度　塩城小学校学校経営計画書

○本校のミッション（使命、存在意義）

○基礎学力を身につけさせ、学力の向上を図る。
○ふるさとを愛し、心豊かでたくましく生きる子どもを育成する。
○地域に根ざした開かれた学校教育を進める。

○内外の環境分析

【学校内】
○児童
・児童の基礎的な学力が全体的についていない。　・スポ少や習い事をしている児童が多い。
・児童は真面目に取り組む。　・スポ少等で疲れている児童がいる。　・読書好きな児童が多い。
・挨拶が進んで出来にくい。　・競争心、向上心が不足している。
・応用力・活用力・表現力が乏しい。　・家庭学習が定着していない児童がいる。
・支援を要する児童がいる。　・著生地区からスクールバスで登校する児童がいる。
○教職員
・経験年数豊富な教職員が多い。
○施設等
・備品、ＩＣＴ機器等が比較的充実している。　・インターネットが各教室で使用できる。
・プールが遠い。　・運動場が広い。　・多目的ホールがある。　・相談室がある。
【学校外】
・２６年度に著生小学校と統合した。　・保護者・地域が協力的である。　・自然が豊富。
・地域ボランティア等が豊富。　・落ち着いた環境にある。　・３世代が多い。
・子ども園、駐在、市民センター、ＪＡ，ＪＡ等の公的施設が比較的近い。
・通学路が長い。　・地区が少子高齢化・過疎化である。　・風が強い。　・猿がよく出る。
・周辺に人家が少ない。　・スクールバス利用がある。　学区が広い。　・子ども園との交流が少ない。

学校教育目標　じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

学校教育目標　「心豊かで実践力のある子どもを育てる」
（３）育てたい児童像
①意欲を持って主体的に取り組み、次のステップに挑戦する子ども
②最後までがんばり通す、強い心と体をもった子ども
　に対してもやさしく思いやりがあり、人の心の痛みがわかる子ども
　の思いを相手にきちんと伝え、相手の気持ちも理解しようとする子ども
　ざす学校像
①子どもが意欲を持って、楽しく主体的に学習する学校
②子どもが安全で安心して生活でき、努力が認められる学校
③自然を大事にし、心身共に健康で活力ある子どもが育つ学校
④ 家庭や地域の教育力を生かし、共に子どもを育てる学校
（４）めざす教師像
①一人ひとりの個性や能力を伸ばす教師
②教育活動を常に見直し、指導法の工夫・改善を前向きに図る教師
③一人ひとりの心に寄り添いながら、共に歩む教師
④使命感・責任感に燃え、教職員集団として協働して取り組む教師

ビジョン

指導の重点

具体的な取組

○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

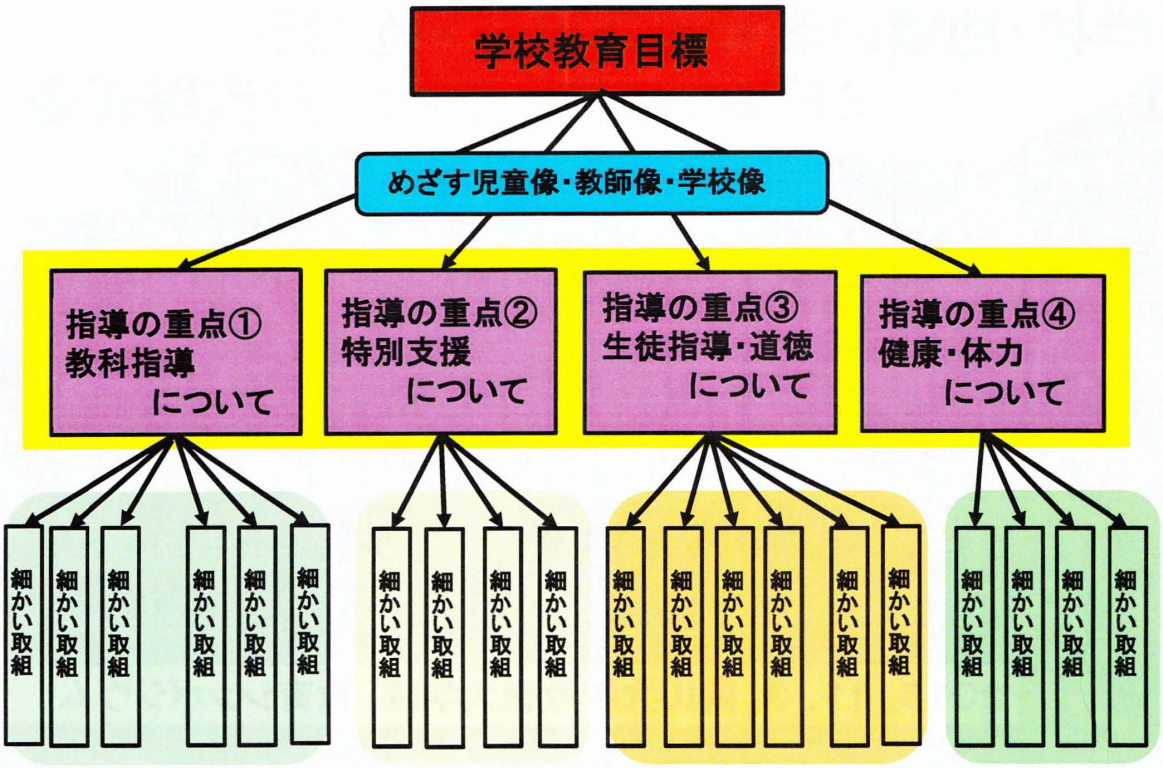
①確かな学力を身につけ、自分で考え行動する力を育てる。（知育）
○具体的計画…【学び合う集団を育成する】
《今年度の達成基準》
○毎時間、「めあて」「まとめ」を明示し、「まとめ」は自分の言葉で表現させる。また、別紙「各教科で取り組むこと」を実践する。
○単元のテストの時、学習到達度テスト（県教委配布のもの）を取り入れる。
○条件を設定したステップアップの活動を取り入れ、発展的な思考を養う。
◇具体的計画…【学び合う集団を育成する】
《今年度の達成基準》
○特別支援教育の視点（授業の構成・授業記録の作成・ノート指導・授業内容の明確化・教具の工夫）を取り入れた授業実践を行う。
○「伝える」「説明する」「話し合う」時間を確保する。（「発表の仕方」を活用）
○ｉｐａｄ等のＩＣＴ機器を効果的に活用する。

②自他の思いを大切にし、助け合う態度を育てる。（徳育）
○具体的計画…【相手を理解する力を育てる】
《今年度の達成基準》
○家庭や関係機関と連携を図り、支援を要する児童への対応の充実を図る。
○早期発見、早期対応を目指して教育相談活動を行う。
○児童・保護者等の実態調査を効果的に行い、検証・改善を図る。
○職員朝礼時や毎月１回研修や会議で、児童理解を行い、共通理解を図る。

③認め合い、支え合う集団を育てる。（徳育）
○「やさしい人間関係づくりに努める」
《今年度の達成基準》
○全校、学年、縦割り班活動、班活動等を積極的に取り入れる。
○豊かな体験と関連づけた道徳時間の指導の工夫をする。
○校内研修の充実に努める。（授業研究、教内研修で授業する。ソーシャルスキル、教材研究、ICT 授業等）
○読書活動の充実を図る。前期・後期各 3000 冊の読書目標に取り組む。（毎朝本場日の読書の日、豊子読書、学級文庫の活用）
◇【家庭・地域との連携を図る】
《今年度の達成基準》
○学校への関心や協力体制を高めるために、学校便り、学年便り、保健便り等を計画的に配布する。
○地域の人の思いを理解したり、自分の思いを表現する力を高めたりしながら、地域との交流活動を計画的に進める。

④ねばり強くやり通す心と元気な体を育てる。（体育）
○具体的計画…【生活習慣の定着を図る】
《今年度の達成基準》
○病気の予防と健康な体づくりを目指すため、うがい・手洗い・水分補給等を重点項目として取り組む。
○保護者と連携し保健指導を進めるために、毎週の清潔調べや毎月の体重測定結果、すこやかカード等を家庭に持ち帰らせる。
◇具体的計画…【安全・安心の気持ちのよい学校づくりに努める】
《今年度の達成基準》
○安全意識を高め、安全な行動ができるように、職員及び児童も校内の安全点検を行う。
○学校全体で朝のあいさつ運動を行い、一日の始まりを気持ちのよいものにする。

＜昨年度までの学校経営計画の構造＞

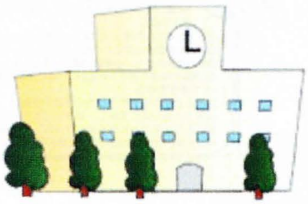


課題

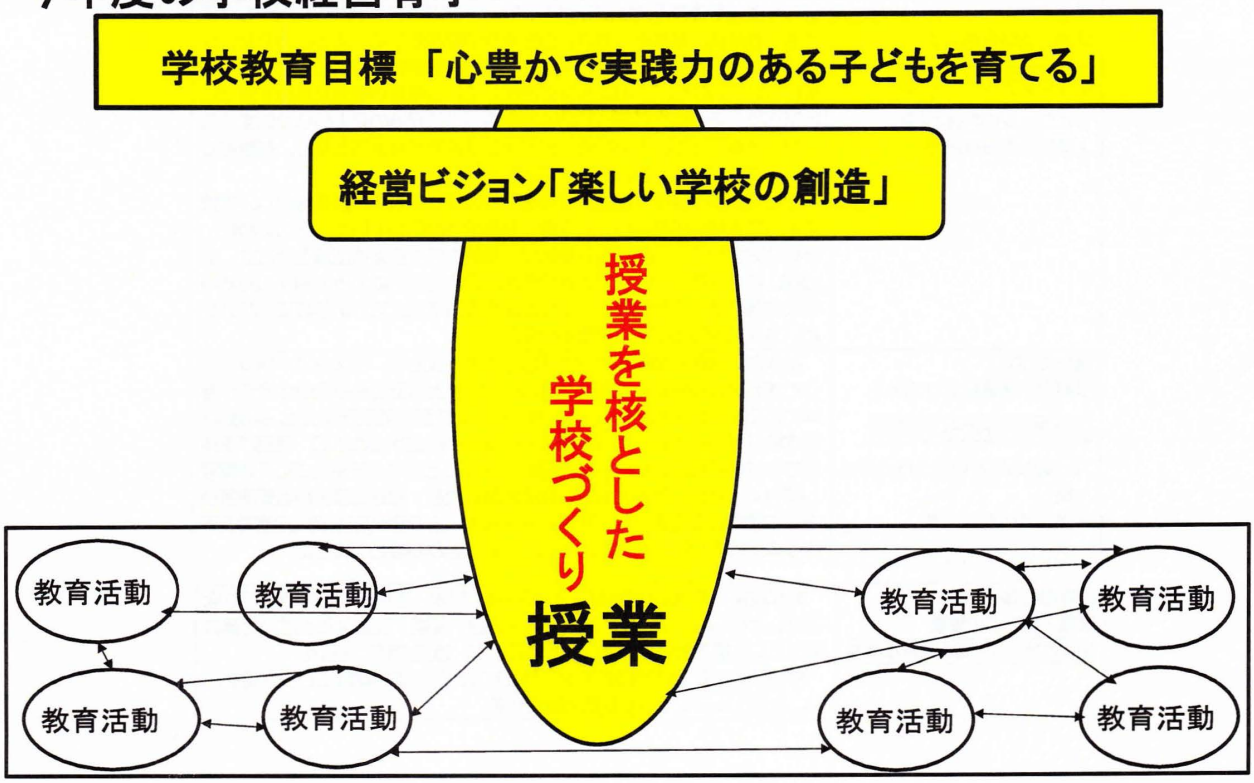
○育てたい子どもの姿の実現ではなく，既存のやり方・方法を踏襲して目の前の教育活動をこなすことに専念している。

○育てたい子どもの姿の実現に向けた授業ではなく，滞りなく授業を展開するためのハウツーに目が向いている。

⇒授業をはじめとする教育活動が停滞しているため，学校の停滞を招いている。



今年度の学校経営骨子



今年度の経営計画

＜学校教育目標＞ 「心豊かで実践力のある子どもを育てる」 ＜ビジョン＞ 「楽しい学校の創造」 ―児童も教職員も自分の力を高めている楽しさを味わえる学校を創造する―	＜実践の拠り所＞ 心豊かで実践力のある子どもを育てる（学校教育目標）のために，児童も教職員も自分の力を高めている楽しさを味わうことができる学校（ビジョン）を，授業改善によって創造していく。

ビジョン（学校としての方向性）実現に向けての現状と今年度の位置付け	今年度（26年度）は，本校の様々な取組について「よさ」を観点として意義や価値を確認したり，整理したりしてきた。児童の学力向上のために「言語活動の充実」をめざした授業づくりをテーマに授業改善と教師の授業力向上に取り組んできた。また，児童の社会性を育むために「認め合う仲間づくり」の重要性を教師が再認識し，学級経営を強く意識するとともに，全教職員で児童の実態を把握し，指導にあたることができている。児童においては学習について向上心の高まりが見られつつあり，仲間を大切にしようとする公平さや寛容さが姿となってあらわれてきている。 そこで，来年度（27年度）は経営方針「楽しい学校の創造」をビジョンとして教育活動を実践していく。これは，今年度の取組を基盤に教育活動の意義や価値を再確認・再検討していくことで質的改善をさらに進めていくことである。そのために，教育活動の核は授業であるという認識のもと授業改善が教育活動の質的改善と考え，教職員の見方や考え方の変容を促すことを重要と考えたい。

＜経営の柱とその考え方＞

経営の柱① 学校の価値を見出す 語り合う子ども・教職員 ・ビジョンの共有と検討 ・教職員の相互作用	昨年度，本校の「よさ」について確認したり整理したりすることで，「子ども，教職員，保護者（地域）の三者が学校を楽しくしようと力を合わせていること」と考えた。この「よさ」をめざす学校の姿としてビジョンに反映した。しかし，このよさを引き出している背景や要因を見出すまでには至らず，そのよさが表れている活動もしくは児童の姿を明らかにすることができなかった。そのため，ビジョンが抽象的な表現となり，教職員にとって共有しにくいものになっていると考える。 そこで，本年度は「よさ」を再確認しながら背景や要因を見出し，本校にとって大切な活動もしくは児童の姿を明らかにしていく。そのために，学校や児童のよさ・課題を教職員が日常的に語り合える組織をめざす。その際，自分（たち）の思い込みや信念，価値観などによって相手の見方や考えを判断するのではなく，もっと違う見方や考え方があるのではないかという探究的な語り合いが重要と考える。
経営の柱② 授業力・学級経営力の向上 自分を磨く子ども・教職員 ・教職員の見方や考え方の問い直し ・教職員の相互作用	基本的には昨年度の研究主題「自分の考えをもち，伝え合い，学び合おうとする児童の育成」を継続していく。児童と教師自身が自分の高まりを味わえるようにするために，各教科において言語活動を充実させ，基礎的・基本的な学力の定着と論理的な思考の向上をめざすとともに，児童が主体的にかかわり合いながら学びを深めていくことができる授業づくりを探究していく。また，学習の基盤となる教師と児童・児童と児童の信頼関係がさらに強固になるように，児童一人一人のよさや変化を的確に把握できるように教師の分析力を磨くことで，学級経営力の向上を進める。

経営の柱③ 家庭・地域との協働 開かれた学校・安心できる学校	昨年度までの活動を基盤にしながらも，学校，家庭，地域の連携が単なる催しとならないように，対象学年・内容・時期・回数などを含めた質の高まりに主眼をおいた見直しを図ることで，連携の深化を図る。 学校保健・安全は学校のインフラと考え，危機管理体制に万全を期すため，シミュレーション訓練を充実させる。

	中期経営目標 （3 年後）	短期経営目標 （1 年後）	短期目標達成のための方策	評価指標 （子どもの姿）
①学校の価値を見出す	○教職員が主体的に語り合いながら，学校のビジョンを深めたり，高めたり，見直したりする協働的な体制が学校の特徴となっている。 ○児童が学習，仲間，地域に主体的にかかわり，自分の精一杯の力を発揮している。	○本校のよさである「楽しさ」を引き出している背景や要因を見出し，よさを象徴している活動もしくは児童の姿を明らかにする。 ○教職員がお互いの見方や考え方，多様な見方や考え方を受け入れながら，教育活動の意義や価値について語り合っている。	○校内研究において，自分の見方や考え方を問い直したり，同僚の見方や考え方を受け入れたりすることで，違う見方や考え方ができるのではないかといった探究的な語り合いを行っていく。 ○ルーチン的な会議については起案等を利用して効率化を図り，教職員同士が語り合う時間を確保する。	○児童は授業をはじめ様々な教育活動において，自分の精一杯の力を発揮しようとしている。 ・児童理解の時間での情報交換 ・児童用生活アンケートの分析（既存のものを利用）
②授業力・学級経営力の向上	○探究的な語り合いに楽しさを感じている教職員の姿と学び合う（伝え合う）ことに楽しさを感じる児童の姿が学校の特徴になっている。 ○教職員一人一人が，日々の授業や学級経営についてビジョンを拠り所に成果と課題を日常的に語り合い，提案性を孕む授業にとり組んでいる。	○教職員が伝え合いを主としたかかわり合いのある授業を通して，「伝え合い，学び合う子」の育成に取り組んでいる。 ○研究の拠り所を支えに，「提案のある授業→省察→次の提案のある実践」という授業改善のサイクルを教職員が語り合いながら繰り返している。	○校内研究を，実践の拠り所を支えに自分たちの授業を省察し，見方や考え方を問い直すことで授業改善を進める場と位置付ける。 ○日常的に授業公開や授業についての語り合いが行われるように，チームによる研究を進めていく。	○児童は自分の考えを深めたり，新しい気づきをしたりするために，教材や友達と主体的にかかわり，伝え合おうとしている。 ・授業観察・分析 ・児童用学習アンケートの分析（既存のものを利用）
③家庭・地域との協働	○学校と PTA，学区等のつながりがさらに深まり，互いのよさを生かした子どものための活動が計画的に行われている。 ○児童と教職員の命を守ることは学校の前提であるという風土が学校に徹底して根づいている。	○対象学年・内容・時期・回数などを含めて質の高まりを意識した計画や見直しを行いながら活動していく。 ○いじめ防止基本計画をはじめ，生徒指導体制の見直し・充実を図る。健康・安全については，人為的ミスが起こりやすい熱中症と食物アレルギーについてシミュレーション訓練を行い，危機管理体制の充実を図る。	○各教職員や各担当者において質的な改善の視点をもって活動を行う。 ○生徒指導担当と安全担当，養護教諭を中心に，校内研修などの時間を利用し，シミュレーションを行うなどして，危機管理体制の確認を随時行う。	○児童は活動の目的を理解し，保護者や地域住民と学んでいる。 ○児童が安全に，安心して学校生活を送っている。 ・保護者アンケートの分析 ・学校評議員会

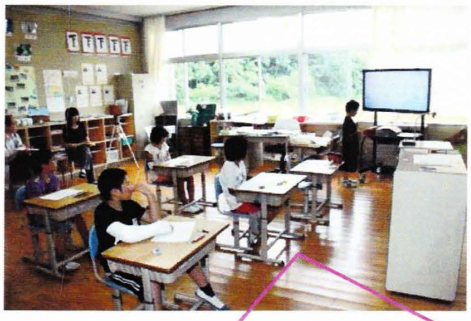
授業づくりは学校づくり・人づくり

学校力
・どんな子どもを育てるのか
・どんな学校にしたいのか

ミドルリーダーとして
研究主任として

授業づくり（校内研究）
・子どもは何をどう学んだのか
・子どもたちは6年間で何を学び，育つのか

授業力
・どんな授業をしたいのか
・どういった授業をすべきなのか



校内研究において考えてきたこと

この授業で，子どもは何をどう学んだのか？
⇒「我々は，どんな子どもを育てたいの？」

子どもたちは，6年間で何を学び，育っているのか？
⇒「我々は，この学校をどうしたいの？」

若手教師との共同研究　<「ごんぎつね」の授業をとおして>

『おもしろみつけ』について疑問をもち，
否定的な立場で授業を構成し，展開していく。

提案性

・「かわいそうみつけ」で子どもは何をどう学ぶの？
・「かわいそうみつけ」で物語が読めるようになるの？
・かわいそうな話で終わっていいの？
・「かわいそう」を分かることが大切なの？

教職員が授業について議論を深めていく。

問い

我々は，これまでのやり方や考え方を繰り返していて，経営計画にあるような子どもを育てることができるのか。

川上先生から

○今回の授業づくりをとおして

○これまでの校内研究から

自分はどう変容したのか？
疑問や悩みをどこに感じているのか？

川上先生の変容が周囲の変容へ

これまでの教育活動を
これまでのやり方で
繰り返していていいのかな？

⇒我々は，どういった授業をしたいのか。するべきなのか。

→我々は，どんな子どもを育てたいのか。
→我々は，どんな学校を創りたいのか。

を自分自身にも，組織にも問うようになってきた。

これからの自分の役割

『自分の立ち位置はどこなのか』を問う。

→若手は若手で育つ

→若手の変容を周りの変容につなげる

授業や教育活動から生まれた具体的な疑問，課題，成果などの現状を，学校づくりにつながる問いに変換していく。

⇒授業づくりを出発点にして，いかに目標やビジョンへ迫っていくかを議論できる問いを生起させていくことが求められている。